

2 アプローチカリキュラム実践事例

アプローチカリキュラム実践事例 目次

事例1 「ウサギの世話をしよう」	4月	……	29
事例2 「プールで宝をたくさん見つけよう」	7月	……	33
事例3 「誕生会の出し物を考えよう」	9月	……	37
事例4 「運動会で応援団をやりたい 5年生に教えてもらおう」	10月	……	41
事例5 「忍者の修行だ うちのチームの仕掛けに挑戦して」	11月	……	45
事例6 「みんなでルールのあるゲームを楽しもう」	11月	……	49
事例7 「すごろくを作ろう」	12月	……	53
事例8 「体験入学 小学校ってどんなところかな」	2月	……	57
事例9 「楽しかった園生活 先生 友達 ありがとう」	3月	……	59

「ウサギの世話をしよう」 4月 ～進級の喜びに支えられて当番活動を進める～

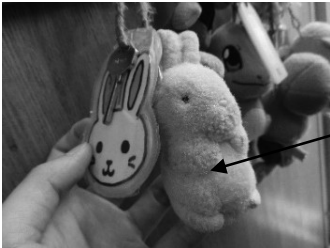

活動の選択理由：新5歳児は、4歳児の2月中旬頃から卒園を控えた1学年上の5歳児と一緒にウサギの世話をしてきた。

4月の進級時は、自分たちがウサギの世話を全面的に任されたことに5歳児として誇らしい気持ちをもって張り切っている姿が見られた。そこで、まずはウサギに興味のある幼児を中心に世話を行っていくようにしていきたい。

保育者は、身近な動物に思いやりの気持ちをもって接してほしいという願いをもって、興味をもって世話をしている幼児の姿がクラス全体に広がっていくようにしたいと考え、当番活動として取り組めるようにした。

ね ら い：ウサギに親しみをもち、世話をする。

※下記「活動の流れ 幼児の姿」における①～⑩の記号は、意識する「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」(P11～12参照)の項目を表す。以下指導案にも同様に表記するものとする。

活動の流れ 幼児の姿	アプローチカリキュラムを意識した指導の工夫 ○保育者の援助 ☆環境構成
<p>・登園後、身支度を済ませ、ウサギの世話に興味をもった幼児が職員室に小屋の鍵と野菜を貰いに行く。①②③④</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center;"> ウサギ 小屋の鍵 </div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px; height: 150px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p style="text-align: left; margin: 0;">失礼します。 サクラ(ウサギ)の鍵と野菜を取りに来ました。</p> </div> </div>	<p>☆家からウサギのエサとなるような野菜があれば持ってくるように事前に声を掛ける。</p> <p>☆職員室のドアの近くの幼児が取りやすい高さのところに目印としてウサギのキーホルダーを付けた鍵を用意しておく。鍵を扱えるのは年長児だけにして特別なものとして位置付ける。</p> <p>○「お腹空いてないかな」「汚い部屋にずっといたらどんな気持ちかな」等ウサギの気持ちになって考えられるような言葉で表し、当番の幼児が世話に取り組むことにつながるようにする。</p> <p>○職員室に入る際は、挨拶や(失礼します、○○に来ました等)目的を伝えたりするよう声を掛けていく。(職員室にいる保育者は子供に近付き、話を丁寧に聞き、内容に沿って援助をする)</p> <p>○動物が苦手な幼児や、興味のない幼児には、保育者も小屋の中に入って一緒に掃除をしたり、ウサギの気持ちで「キャベツが食べたいな」「お部屋がきれいになって嬉しいな」等、言葉に出したりして、興味がもてるようにする。</p>

- ・ウサギの世話をする。

＜世話の内容＞

- ・ウサギを小屋の外に出す
- ・ほうきとちりとりを使い、糞を集める
- ・水を取り替える
- ・野菜やラビットフードを与える
- ・ウサギを小屋に戻す
- ・職員室に鍵を返す

- ・自分からすすんで掃除やエサやりをする幼児、「○○君、水換えて」と役割を考えて友達に伝える幼児、小屋の外に出したウサギを撫でる幼児、友達の姿を見てまねてみようとする幼児等の姿がある。⑨
- 一方で、動物が苦手な幼児や、世話をすることに気がすすまない幼児の姿もある。



- ・糞の様子やエサの食べ具合を見て、気が付いたことをつぶやく幼児がいる。
- ・職員室へ鍵を返し、手を消毒する。①②

☆卒園児が作ったウサギの世話の仕方が描かれた絵を小屋の中に貼り、順番に沿って世話を進めていくことに興味をもてるようにする。



○「今日はキャベツをよく食べているね」「うんちがいっぱいだ」「僕が持ってきたニンジン、食べてくれた！」等、一人一人の気付きを受け止め、言葉を拾いながら「ニンジン食べてくれてよかったね」「明日はどうか」と期待がもてるような声を掛ける。

○世話が終わったことを確認し「おうちの中がきれいになって、お腹もいっぱいになって嬉しいだろうね」と、ウサギの思いを言葉に表し、当番の幼児の取組みを価値付ける。

○集合時に、世話をした幼児の取組みを伝えたり、世話をした幼児からやってみてどうだったか等の感想を引き出したりする。また他の幼児から質問を出してもらってクラスでウサギの世話の仕方について分かり合えるようにして興味・関心を高め、ウサギの存在や思いを共有していく。

※動物アレルギーの幼児がいる場合には、できる範囲で(水を入れ替える、ウサギの様子を見守る等)参加できるように声を掛ける。家庭とも連絡を取り合って理解を得た上で、安全に留意しながら、幼児にとって大切な経験が得られるようにする。

※休み明けは汚れがひどいことが予想されるので、登園後すぐに取り掛かれるようにする。特に、汚れがひどいところは保育者が担うようにする。

※「サクラちゃん、おうちのお掃除に来てほしいって待っているよ。お腹も空いてるよね」等、幼児が世話の必要性を感じ取れるようにする。また、ウサギの側に立って「気持ちよくなってよかった」「お腹もいっぱいになった」等の言葉を掛ける。

※ウサギをはじめ、言葉を発することのない生き物との関りでは、生き物の状況を知り、どんな思いか、などを想像する力が求められる。幼児と保育者、あるいは幼児同士で、想像したことを行き交わせながら、生き物への思いやりを育てていくようにする。

その後の活動

～ウサギの目がおかしい～

○夏休み中、当番の幼児がウサギの目から白い涙が流れていることに気づき保育者に伝えてきた。保育者が動物病院へ連れてくと、「結膜炎」と診断され、一時期室内で生活することになる。幼児に1日3回の点眼が必要になり、接触は避けた方が良いと言われたことやウサギが高齢であることを伝えると、心配する姿があった。玄関の近くに飼育ケースを置いたことで、帰りがけに飼育ケースを覗いたり、エサを食べている様子を観察したり、体調を気に掛けていた。



～震えてるよ、寒いのかな～

○9月、台風が過ぎ去った翌日、小屋の中を見るとウサギが震えていた。どのような環境が良いのか幼児たちと考え合った。夏休みと同様に涼しい玄関の近くに置くことに決める。降園時に乳児や他の学年が通ることで興味をもって関わる姿があった。

アプローチカリキュラム4月～5月

- 生活 : 修了児（前年度5歳児）から引き継いだ動植物の世話をする活動
新しい環境に興味をもって取り組む活動
- 人とのかわり : 進級の喜びを感じる中で、友達と一緒に楽しむ活動
- 学び : 気が付いたことを友達に言葉で伝えようとする活動
身近な動植物に興味・関心をもち、不思議さや尊さに触れる活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動

<ポイント>

① ウサギもぼくたちの仲間

身近な動植物に触れながら、生き物に対する親しみや愛情を深めよう。

みんなで共有するための工夫

- ・自分自身の衣食住を振り返り、（自分は朝ごはんを食べたから元気、ごみのない綺麗な家で快適に暮らしている、体が清潔等）「ウサギは今日ご飯食べたかな?」「うんちばかりの所で生活したいかな?」とウサギの気持ちになって考えられるような声掛けをしたり、「部屋が汚れてるから綺麗にしてあげよう」とウサギの様子を見て自分から世話をしようとする姿を認めたりする。
- ・保育者も一緒に世話をすることで、幼児のつぶやきや気付きを受け止め、「今日こんなことがあったんだよね」と、幼児の気付きを自分の言葉で学級の友達に伝え、共有できる機会を設ける。



② みんなでできたよ

友達と一緒に協力して世話をしよう。

友達と一緒に進めていくための工夫

- ・世話が終わった幼児に「みんなでできたね」「ウサギも喜んでるね」と声を掛け、幼児が取り組んだことを認めたり、ウサギの気持ちを代弁したりして、誰かの役に立つ喜びを感じていけるようにする。
- ・「〇〇君が水換えてくれたんだね」「ほうきとちりとの使い方が上手だね」と声を掛けたり、周りの様子を見て、終わっていないところを手伝おうとする姿を引き出し、みんなで協力してできたこと実感する。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ウサギの世話の仕方や手順を分かろうとする。 ウサギが愛おしいという気持ちをもつ。
② 自立心	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割が分かり、最後まで行おうとする。
③ 協同性	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に協力して進める。 世話をする中で互いの役割を分かり合っけて取り組む。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 職員室の先生に挨拶をし、目的を伝える。 小屋の鍵を大切に扱う。
⑤ 社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 活動を分担して進める。 役に立つ喜びを感じる。
⑥ 思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> 身近な植物も食べるのか試す。 どうすればウサギを抱っこできるのか試行錯誤する。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> 身近な動植物の世話を通し、命の大切さに触れる。 ウサギの気持ちを考え、思いやりの心をもって接する。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 与えたエサの減る量を知る。 その日のうちに食べきれぬエサの量を考える。
⑨ 言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> グループの友達に声を掛け、当番を始める。 「〇〇お願いね」「まだうち残ってるよ」と声を掛けながら進める。
⑩ 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> 自分が与えたエサがウサギを食べた姿を見て喜ぶ。 「いいこだね」等ウサギに話しかけながら撫でたり直接エサを与えたりする。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- 職員室に用事があるときは、挨拶をして、内容等を伝えていけるように繰り返し指導する。
- 世話の仕方が分かり、最後までやり遂げようとする姿を認める。
- 自分たちにできることや必要なことを考え、やってみようとする姿を引き出す。

〈人とのかかわり〉

- 友達と一緒に目当てをもって取り組む気持ちを励ましていく。
- 相手の動きを感じながら、自分のすることを考えて取り組んでいる様子を認め「協力して行う」ことを体験として積み重ねていけるようにする。

〈学び〉

- ウサギも自分たちと同じように暮らしていること、誰かが世話をしとあげないと生活できないことに気付かせ、大切にしようとする気持ちを育てる。
- 身近な動植物だけでなく、相手の立場になって考えることの大切さに気付かせる。
- 言葉を話さない動物が何を好むのか、どうして欲しいのか考えた経験から、相手が喜ぶことや嫌がることを考える。

※生き物を飼育することは、園全体で取り組む活動である。当番として日常的に世話をしている年長児を園の職員全体が見守り、支えていく体制が求められる。


※年長児が長期にわたって取り組む過程では、大きな園行事や活動の時期など、飼育物に十分に関われない場合もある。そのような時期を乗り越えながら、年長児として最後まで精一杯取り組んできたという実感を得ていくことが大切である。世話をやり通した達成感を味わえるようにして、次の5歳児に自信をもってウサギの世話を引き継いでいけるようにする。

「プールで宝をたくさん見つけよう」 7月

～水に親しみ、グループで取り組む～

活動の選択理由：5歳児は、5月中旬頃よりグループで取り組む活動をしてきた中で、仲間意識が強くなってきている。そこで夏ならではのプールでできる「宝探し」にゲーム形式で取り組み、遊びを通して楽しみながらグループの友達に注目したり、応援したりして、仲間としてのつながりをより一層感じてほしいと考えた。

ね ら い：活動の内容やルールを理解し、グループの一員としてゲームに参加することを楽しむ。
水に親しみ、水の中で思い切り体を動かすことを楽しむ。

活動の流れ 幼児の姿	アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫 ○保育者の援助 ☆環境構成
<ul style="list-style-type: none"> ・プールに入る準備をする。①②⑤ トイレ・着替え・水分補給をする等  <p style="text-align: center;">*ラップタオル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールでの宝探しゲームの話聞く。④ グループ対抗であること 取り組む順番をグループで決める 使う用具（沈むボール、カゴ）の確認 <ul style="list-style-type: none"> ・準備体操をする。（ラーメン体操、カエルの体操等） ・シャワー、腰洗いを する。①⑧  <ul style="list-style-type: none"> ・プールに入る。④⑦⑩ 	<p>○事前にプールの準備を始める時間を知らせ、見通しをもって行動できるようにする。その中で、気付いて動ける姿、分かっていない友達に声を掛けている姿を十分に認める。</p> <p>○脱いだ衣服を揃えてきれいに畳もうとする姿を認め、他児への刺激とする。</p> <p>☆着替えの手順をイラストで掲示し、自ら着替えられるようにする。（プール前）</p>  <p>○宝探しゲームの内容を説明し友達と一緒に力を合わせて取り組む楽しさに期待が膨らむようにする。</p> <p>○順番決めは、各グループの様子を把握しながらも自分たちで決められるようにする。</p> <p>☆用具の準備 をする。</p>   <p>○プールの約束（走らない・ふざけない・話をよく聞く）を確認し安全に対する意識をもたせ、楽しくゲームに取り組めるようにする。</p> <p>○幼児の好きなリズムダンス等を取り入れ、楽しく体を動かせるようにする。</p> <p>○体を清潔にすることで、健康に楽しくプール遊びができることを伝える。腰洗いでは、みんなで『10』</p>

水に慣れる遊びをする。

(歩く、走る、ジャンプ、しゃがむ等)



・宝探しゲームをする。③④⑤⑥⑨⑩

<グループ対抗>

代表が一人ずつ出てゲームをする。

(4人×4ゲーム)

数回取り組めるようにする。



・着替えをする。①②⑤

・トイレ、うがい、水分補給①

・今日の活動の振り返りをする。⑨⑩

楽しかったこと、面白かったこと、気付いたこと、困ったことなどをグループ毎に話す。

を数え、数への意識につなげる。

○水位の低いプールに初めに入ることによって水に慣れ、深さのあるプールにも無理なく入れるようにする。

○足元に気を付けることや、水に抵抗のある幼児には手をつないだりして安全に入れるようにする。

○興奮して話が聞けなくなることもあるので、次のことを聞こうとしている幼児を認めて、クラス全体で話が聞ける環境を作る。

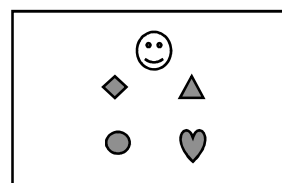
☆プールの中には、ゲームをする幼児のみ入る。他児は応援できるよう、プールサイドに座る。

・幼児 ○ ◆ ▲ ♥

・保育者 ☺

・プール (1.8m×2.7m)

☆グループから1人ずつゲームに参加する。



☆宝 (沈むボール20個、カゴを4色を用意)

○順番に取り組む中で、水中に体を入れて取る、潜って取る、水中で目を開けて取る等の姿を認め、周りの幼児に伝えていくことで、一人一人が自分の力を発揮する喜びを感じられるようにする。

○1回のゲーム毎に、宝の数をみんなで一緒に数えながら、数に興味をもてるようにする。

○楽しかったという気持ちを保育者も一緒に感じながら、ゲームの結果や幼児の頑張りを通して、「またやりたい」という気持ちを引き出していく。

○着替えの手順をイラストで示し、視覚からも分かりやすいようにする。(プール後)



☆自分の思っていることを言葉にできるように、落ち着いた場を設定する。

○保育者は、話を肯定的に受け止め、復唱しながらクラス全体で内容を共有できるようにする。

○友達の話を聞いてどうしたらもっと楽しめるのかなど考えてみることを提案し、次回への期待につなげる。

アプローチカリキュラム6月～9月

生活：興味をもったことや好きなことを選べる多様な教材や活動

人とのかかわり：多様な感情体験を味わい、自分を表現しながら、友達との関わりを楽しむ活動

学び：自分なりの課題をもって繰り返し取り組み自分の力を発揮する活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動

<ポイント>

① 友達とのつながり

友達の頑張りに気づき、互いに認め合う。

幼児へのアプローチをしやすい工夫

- ・今何をするべきなのか、またゲームのルールが分からないなど困ったことを友達同士で伝え合う姿を認める。
- ・振り返りの時に、ゲーム中に友達の頑張りを応援したり、アドバイスしたり、認め合ったりしていた幼児の姿を取り上げる。
- ・他児のいい姿をまねたり、さらに工夫したりして、良いものにしようという姿が引き出せるよう、ゲーム中にも他児の良い面を具体的に言葉にして伝える。



② 自分の力を発揮

どこまでできるか挑戦する。

色々な手段を考えてやってみる。

幼児が力を発揮しようとするための工夫

- ・幼児一人一人の今の状況を把握し、その子に応じた頑張りをしっかりおさえて認めていく。
- ・グループの友達の工夫している姿、意欲的に取り組もうとする姿を認めて意識させることで、自分もやってみようという意欲につなげる。
- ・自分の得意なこと、できることなどをみんなの前で実際にやってみせる機会をつくり自信につなげる。



<水遊び・プール遊びを楽しむために NO.1>

- 安全に楽しむために、保護者が子供の健康チェックをして、プールカード（体温記録票）で確認します。～保護者と一緒に体の状態を確認し、自分の体に関心をもち意識できるように～

健康チェック

- ・朝食を食べましたか
- ・熱はないですか
- ・よく眠りましたか
- ・髪の毛の長い子は結びましたか
- ・手足の爪は短く切っていますか
- ・朝、排便はありましたか
- ・体調は良いですか

体温記録票 月

日	曜	体温	プール○×	服薬	備考
1	月	36.5℃	○		
2	火	37.3℃	×	あり	微熱、咳、鼻水のため
3	水	37.0℃	×	あり	咳がまだ出るため
4	木				

本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・ゲームをしながら体を思い切り動かす楽しさを感じる。 ・プール遊びの前後にシャワー、うがいをし、感染予防に努める。
② 自立心	・プール遊びの身支度を、理解し考えて動こうとする。 ・グループの一員としてゲームに参加する。
③ 協同性	・互いに気付いたことを伝え合ったり、応援したりする。 ・友達の良い面や頑張っている姿に目を向ける。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・ルールがある中で遊ぶことの面白さ、ルールを守ることの大切さが分かる。
⑤ 社会生活との関わり	・周りの友達や保育者を見て、気付いたり手伝おうとしたりする。
⑥ 思考力の芽生え	・ゲームの中で、「宝」をうまく探せる方法を考える。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・水の感触（冷たさ、気持ちよさ）を十分に楽しむ。 ・水面にうつる、光の不思議さに気付く。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	・腰洗いや宝探しで、数を数えたり、取った宝の数を確認したりして数に興味をもつ。
⑨ 言葉による伝え合い	・友達に分かりやすい言葉で、自分の思いを伝えようとする。
⑩ 豊かな感性と表現	・友達と一緒に遊んで楽しかったという思いを共有し仲間として意識して喜びを感じる。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・プール活動の安全面や衛生面について、幼児にも分かるように話す。一人一人が意識して取り組むことができるようにする。
- ・活動の手順をホワイトボードや絵を使って分かりやすく伝え、見通しをもち、自ら考えて行動できるようにする。

〈人とのかかわり〉

- ・友達とのつながりを感じたり、自分の力を発揮したりできるように、クラスのみんなで取り組む機会を多く作る。
- ・友達と思いを出し合ったり、受け入れ合ったりしながら遊びを楽しめるように、幼児の思いを捉え全体に返していく。

〈学び〉

- ・友達と一緒にプールに入ったり、水遊びをしたりなど、楽しめる環境を作り、水の感触、水の冷たさ、気持ちよさを、十分に味わえるようする。
- ・友達と一緒に満足いくまで活動が続けられるように活動時間に余裕をもち、一人一人の力が十分発揮できるようにする。

〈水遊び・プール遊びを楽しむために NO.2〉

- 自分でできることは、進んでやってみよう。

①必要な物を準備する。(保護者と一緒に)

- ・水着・プールバック(又は手提げビニール袋)・ゴム入りバスタオル(又はラップタオル)・プールカード(体温記録票)

②プールに入る準備や後始末を自分でする。

準備⇒水着に着替える・脱いだ衣服を畳んで片付け、新しい衣服を出す等

後始末⇒シャワー後、タオルで体を拭く・新しい衣服に着替える・自分の水着をタオルに包み片付ける・水分補給をする等

〈水遊び・プール遊びを楽しむために NO.3〉

- プールの衛生管理 *「保健業務の手引き」より

(区立保育園共通マニュアル：看護師会)

- ・プールでの感染防止対策

- ①プールの水は、法令に従い遊離残留塩素濃度 0.4~1.0ppmを維持する。
- ②十分なシャワーの励行。(特に付着した便の除去)
- ③腰洗い槽での消毒の励行。
- ④プールに入った後は、洗顔、うがいの励行 等

- プール遊びの安全管理 *「水遊び・プール遊びガイドライン」より


(区立保育園共通マニュアル)

- ・監視役をたてる。監視役は監視役に徹する。タスキ、ゼッケンを付ける。
- ・確認チェック票を利用しチェックする。等

「誕生会の出し物を考えよう」 9月
 ～グループの目的が分かり、友達とのかかわりを楽しむ～

活動の選択理由：5歳児は年長組になってから誕生会の準備を担うようになり、毎月司会やプレゼント作りに取り組んできた。今回はお楽しみの出し物を見せたい。出し物として、分担奏や踊りの振りを考える中で、自分の思いを伝えたり、友達の思いに気付いたりしながら、友達と一緒に楽しんで出し物作りに取り組めるようにしていきたい。

ね ら い：誕生会の出し物の準備に、友達と思いを出し合いながら取り組むことを楽しむ。

活動の流れ 幼児の姿	アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫 ○保育者の援助 ☆環境構成
<p>【前日までの活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループを決める。(楽器・ダンス) ・学級で「とけいのうた」の合奏を楽しむ。 <p>【当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集まる。 ・保育者の話を聞く。①②⑥⑨  <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに誕生会のお楽しみの準備に取り組む。③⑨⑩ 	<p>○グループの希望を聞き、人数のバランスをみながら、幼児がやりたいグループに入れるようにする。</p> <p>○時計の音にはどんな音があるか、イメージを膨らませられるよう事前に絵本や歌にも親しむ。(例：絵本「とけいのえほん」「とけいのほん1」歌「とけいのうた」「大きな古時計」)</p> <p>○幼児が出し物について具体的なイメージをもって活動に取り組めるように、誕生会が2日後に来ることや、みんなの前で発表することを話し、幼児の期待を高める。</p> <p>○「楽器の鳴らし方を考えて音を揃える」「踊りの振りを考える」など、話し合いのポイントを示し、グループの活動が明確になるように伝える。</p> <p>☆時計の表示で集まる時間を提示し、ホワイトボードにグループの活動内容、集まってからやることを明記し、見通しをもって行動できるようにする。</p> <p>○話し合いの中では、十分思いを伝えられない幼児が自分を表せるように側で支えたり、周囲のメンバーの聞こうとする姿を認めたりして、話し合いの進め方を体験できるようにする。</p> <p>○出し物作りに向かって活動が進んでいく過程を励ましたり、その進捗に期待感を伝えたりする。</p>

【合奏 4グループ】

- ・「とけいのうた」の楽器の鳴らし方を考える。⑥⑨



【踊りグループ 2グループ】

- ・振りや立ち位置を考える。



- ・集まる
グループごとに報告をする。⑨⑩
自分たちのグループの発表をする。
他のグループの発表を見る。



☆楽器グループは時計の音に合った楽器(ウッドブロック、カスタネット、鈴など)、踊りグループには録音してあるカセット等を準備し、幼児が自分たちで試せるようにする。

○楽器グループは、選んだ楽器の音を聞き合ったり、打ち方を考えたりしながら、音を揃うようにしてその楽しさを感じられるようにする。

☆落ち着いて取り組めるように椅子に座り、互いの顔を見ながら相談できる環境を準備する。

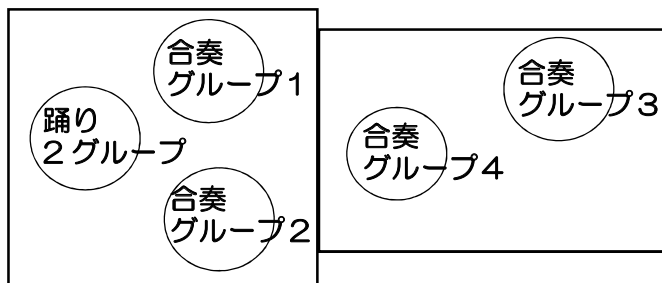
○ダンスのグループは、曲想に沿って動き方を考え合う中で、自分なりに動いたり、互いに動きを見合ったりして振りが揃っていくようにする。まとまっていくことへの楽しさに共感する。

○踊りの振り付けや立ち位置など幼児の考えを認めたり、友達の工夫に気付く楽しさに共感させる。

☆音声再生機器を準備し、自分たちで繰り返し試せるようにする。

〈遊戯室〉

〈保育室〉



○他のグループの発表を見て、友達の取り組みに目を向けて、頑張りや工夫に気付いていけるようする。

○誕生会当日を思い描いて、期待を膨らませていけるように、頑張った姿を認め、当日を楽しみに待てるようにする。

☆グループ同士がつながりを感じ、受け止め合いができるよう、発表して互いに見合う時間を保障したり、頑張ったところを幼児に聞いたりして、学級全体で取り組んだことの満足感を味わえるようにする。

アプローチカリキュラム6月～9月

生活：興味をもったことや好きなことを選べる多様な教材や活動

人とのかかわり：多様な感情体験を味わい、自分を表現しながら、友達との関わりを楽しむ活動

学び：グループの取り組みが分かり、自分なりに力を発揮して目的を達成する活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント 〈ポイント〉

① 友達と一緒に考えたら素敵なものができた

自分の思いを出したり、友達の考えを聞いたりしよう。

自分の思いを出したり、友達の考えを聞いたりするための工夫

- ・ 幼児が歌いながら相談を進めていけるように踊りの振りを考える。曲に事前に学級で親しむ。ピアノの伴奏を録音した音声再生機器を準備し、相談した後に幼児が自分たちで試せるようにする。
- ・ 歌詞のカードを分担ごとに色を変えた紙に書いて掲示し、視覚的に分かりやすくする。
- ・ 自分の思いを出したり、友達の意見を聞いたりしている姿を認め、保育者が「〇〇ちゃん、いいこと言っていたよ。聞いてごらん。」「△△くんはどうしたいんだろうね」など、互いに幼児同士が聞き合ったり、受け入れ合ったりできるように幼児同士のやり取りを支えていく。



② 行事に向け学級のみんなで準備しよう

園の行事に期待をもち、楽しんで取り組もう。

園の行事に期待をもち、楽しんで取り組むための工夫

- ・ 行事までの見通しをもち、自分たちで取り組んでいけるようカレンダーや一日の流れなどで取り組みを提示していく。
- ・ 幼児の思いを十分に引き出しながら、自分たちで進めていく活動という意識を、個々がもてるようにしていく。
- ・ グループの発表を通して、各グループの特性やよい面に相互に気付くようにする。気付いている姿を全体に返し、友達の取り組みに対して肯定的な見方ができる姿を価値付けていく。
- ・ グループで取り組んだことが学級の成果につながっていくことを伝え、みんなですべてできたことや頑張ったことを学級全体で喜び合えるようにする。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・期待をもって、誕生会のお楽しみの出し物の準備に楽しく取り組む。
② 自立心	・学級の課題を受け止め、グループの活動に主体的に取り組む、自分なりに考える。
③ 協同性	・友達と一緒に、楽器の鳴らし方や踊り方を相談する。 ・相互に頑張ったことを認め合う。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・楽器の打ち方や踊りの振りを友達と相談する中で、自分の気持ちに折り合いをつける。
⑤ 社会生活との関わり	・グループの中での自分の役割が分かって取り組む。 ・他のグループの取り組みに関心をもつ。
⑥ 思考力の芽生え	・どうするとより良いものになるか、楽器の鳴らし方や踊りの動きを考える。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	・誕生会を通して幼児なりに友達が生まれてきたこと、元気で過ごしていることを祝う気持ちをもつ。 ・祝ってもらった幼児は、みんなに待たれて生まれてきたことを感じ、家族や周囲の人への感謝の気持ちをもつ。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	・掲示されている歌詞を見る。 ・自分が何グループか分かる。 ・歌詞ごとに分担していることが分かり、歌いながら相談する。
⑨ 言葉による伝え合い	・自分の思いを出したり、友達の考えを聞いたりする。
⑩ 豊かな感性と表現	・自分のグループの表現を楽しむ。 ・他のグループの表現を見て、刺激を受ける。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・活動の内容を計画的に提示し、幼児が見通しをもって取り組めるようにする。
- ・学級全体で取り組みが分かり、自分たちが進めているという満足感や達成感を味わえるよう、幼児と共に進捗を確認して、当日への期待を高める。

〈人とのかかわり〉

- ・自分で考えたことを相手に伝えたり、友達の考えを聞いたりする中で、友達のよさに気付いたりすることで、互いに思いを伝え合い、グループの一員という意識をもって取り組めるようにする。
- ・グループでの活動を通して、共通の目的をもち、友達と力を合わせることで「できた!」「楽しかった!」という思いがもてるようにする。

〈学び〉

- ・活動のねらいを理解し、自分なりに考え、自分の力を発揮できるよう、幼児一人一人の思いを引き出したり、認めたりする。
- ・話を聞く態度を身に付けるために、話をする人や発表している人に体を向け、相手の目を見て話を聞くようにさせる。また、話を聞くことの楽しさを味わう経験を積み重ねる。

事例4

「運動会で応援団をやりたい 5年生に教えてもらおう」 10月
 ～『かっこいい小学生』憧れから自立的、社会的、協同的な取り組みへ～

活動選択の理由：運動会で5年生の応援団に憧れをもった5歳児たちは、自分たちも幼稚園の運動会で応援団を格好よくやりたいと思った。そこには主体的に目標をもって自発的に取り組む幼児の姿がある。そこで、5年生との触れ合いを通した応援団活動は、小学校生活に憧れや期待感をもち、友達と一緒に力を合わせる喜びを実感し達成感をもつことができると考えた。

ね ら い：5年生の姿に憧れ、自分から応援団の動きを取り入れようとする。友達と相談し合い、動きを自分たちなりに合わせることを楽しむ。

活動の流れ ★幼児 ●児童の姿	アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫 ○保育者・教員の援助 ☆環境の構成
<p>★グループの友達同士で声を掛け合い、互いにハチマキを締め合い応援の準備を始める。③⑨</p> <p>★グループごと練習を進める。 ●笑顔で照れながら幼児に挨拶したり、手を振ったりして隊形に並び張り切って応援を見せる。</p> <p>★5年生の迫力に驚き、憧れの気持ちをもって応援を見ている。⑤⑩</p>	<p>☆5年生の訪れる時間に気付いた幼児がグループの友達に時間を知らせるように促し、応援の場を作りながらみんなで一緒に準備を進めるようにする。</p> <p>○各グループで練習が進められるように、グループ間の間隔や動きやすい場を確保をする。</p> <p>○協力してグループ活動ができるよう相手の話を最後まで聞き合う姿を認める。</p> <p>・幼児の前で応援を見せることは、幼児の見本となることを伝え、一人一人が自信をもって動くように励ます。</p> <p>○5年生が伸び伸び動ける場を確保するとともに、幼児が見やすいように並び方などに配慮する。</p> <p>○5年生に対する幼児の憧れの気持ちを、具体的な幼児の姿を通して児童に伝える。</p>

★「かっこいい！」とつぶやいたり、笑顔で保育者や友達の顔をみたりする。②⑤

★自分から5年生の応援のまねをして、5年生に教えてもらおうとしている。②⑤⑨⑩

●応援の仕方や聞き方に戸惑っている幼児に気づき、声を掛けたり、教えてほしいと言う幼児の話をよく聞いて教えたりしている。

★5年生に褒めてもらったり認めてもらったりすることを喜ぶ。⑤⑨⑩

★小学生と一緒に集まり、教わった応援のコツなどをグループごとに全体の前で話す。③②⑨⑩

★終わりの会で、5年生にお礼の言葉を言ったり、後でお礼の手紙を届けたりすることを伝える。
④⑤⑨

★グループごとに5年生と手をつなぎ玄関まで送っていく。
④⑤⑩

●お礼を言われて笑顔を返したり、幼児と「また来るよ」と話したりしている。

★グループごとに教わったことを話したり、感じたことを話し合ったり、全体の前で動きを見せたりする。⑨⑩

○一人一人の表情や態度を見ながら、幼児の感動や興味のポイントを把握する。

○5年生の応援に興味をもったり驚いたりする姿に笑顔で共感を示す。

○5年生が応援で見せる細かい動きや切れの良い動きを、保育者の感動を込めて伝える。



○ほめられて嬉しい思いに共感し、それぞれに頑張っている姿を認める。

○小学生にしてもらって嬉しかったことを言葉にして感謝の気持ちを伝えるように援助する。

○幼児たちが喜んでいたり、5年生に憧れていたことを改めて伝える。

○5年生に教えてもらった応援を一緒に思い出しながら応援の練習をしたり、運動会に期待がもてるような声掛けをしたりする。



5年生みたい!



優しくしてくれてありがとう
お兄さんたち格好良かった
運動会、見にきてね!

アプローチカリキュラム 10～12月

- 生活：周囲の状況や友達の動きや気持ちを受け止めながら、体を思い切り動かす心地よさを味わう活動
- 人とのかかわり：クラスや園全体で取り組む中で、みんなで気持ちを合わせ、やり遂げる楽しさを味わう活動
- 学び：身近な事象や友達の活動から、気付いたことや思いを感じ取ったり、取り入れたりする活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動

<ポイント>

① 周囲の状況を取り入れよう

憧れの5年生の動きや話をよく見たり聞いたりして、自分たちでやってみる

5年生に憧れて応援団の練習に自発的に取り組む工夫

- ・5年生の応援団の姿をビデオで視聴し、クラス全体で感動を共有する機会を作る。
- ・5年生に「恰好いい応援団をやりたい」とクラス全体で相談し手紙を書いて届ける。
- ・自分たちが計画・依頼したことで、5年生が教えてくれることを意識付ける。
- ・目的に向かって自発的に取り組むために「5年生の動きや言葉をよく見たり聞いたりする」視点を明確にする。



② みんなで、気持ちを合わせよう

互いに思いを伝え合ったり、動きを見合ったりしながら、気付いたことを話し合い、5年生の姿に近づこうと取り組む

全体をそろえる工夫

- ・5年生と一緒に掛け声を合わせ、声の揃う気持ちよさを感じさせる。
- ・一人一人が自分から5年生の動きを確かめるように援助する。
- ・グループの中で互いに見合ったり、他のグループとも見合ったりしながら揃えるようにすることでクラス全体の一体感をもたせる。

本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・期待感をもって応援の練習に楽しく取り組む。 ・体全体を伸び伸びと動かす。
② 自立心	・自分から目的をもち応援の練習に取り組む。
③ 協同性	・互いに思いを出し、助言し合い進める。 ・クラス全体で動きをそろえようとし、一体感をもつ。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・5年生に憧れ、目標をもつ。
⑤ 社会生活との関わり	・5年生に自分なりの関わり方で接する。 ・教えられたことを真剣に行う。
⑥ 思考力の芽生え	・応援の順番を考えたり、動きが揃うように考えたりして動く。
⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心	・三三七拍子のリズムに親しむ。
⑨ 言葉による伝え合い	・振り返りの中で、グループごとに5年生から教えてもらったことを話したり、感じたことを伝え合ったりする。
⑩ 豊かな感性と表現	・上手になった応援を小学生に見せたいと思う。感謝の気持ちを伝えたり、お礼の手紙を書いたりする。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

<生活>

- ・小学生の応援団の機敏で堂々とした動きに強い関心を示す幼児に保育者も共感し、いろいろな体の動かし方や声の出し方に気付かせる。
- ・自分たちの運動会で、カッコいい応援団をしたいという気持ちに共感し、5年生の元気な姿を印象付け取り込むようにする。

<人とのかかわり>

- ・5年生と触れ合う機会を多く取り入れ、5年生への親しみや憧れを育てる。
- ・5年生に応援の仕方を教えてもらう依頼をするところから、活動を始め、快く承諾してくれたことを喜び感謝の気持ちを育てながら計画的に進める。
- ・グループの友達と動きや声を合わせて応援に取り組み、協力する心地よさや満足感を味わえるようにする。

<学び>

- ・幼児の上手になりたいという思いから、5年生に教えてもらうことを意識させ、主体的な取り組みや自分で考えて行動する力を伸ばす。
- ・5年生の頼もしく優しい態度や、分かりやすい言葉遣いなどに目を向けるようにする。
- ・5年生との触れ合いを通して、年下の子供に対する態度や関わり方を学べるようにする。

保育者と教員との連携におけるポイント

- ・交流行事・活動では、必ず事前にねらいを伝え合い、指導案を交換し配慮点を共有する。
- ・遠足の時には、慣れない環境で不安感をもつ幼児や、支援児等の情報を事前に共有しておく。
- ・教員・保育者が互いの幼児・児童の発達の特徴や具体的な姿などを伝え合う。例えば、子供たち同士で取り組めること、教師とともに取り組むことなどを確認して、活動を展開する。
- ・年間の交流計画や行事に限らず、日常の休み時間を活用した交流など、自然な形で互いに触れ合う機会を取り入れる。その際、保育者や教員の連携を密にし、子供たちの姿を共有する。

幼稚園・小学校の交流計画(例)

1学期：5年生に関心をもったり憧れたり親しみを感じたりする

- 5月 自己紹介・校庭や体育館で遊ぶ 遠足の相談をする
小学校の休み時間に一緒に遊ぶ（5年生の考えた遊びや幼稚園でしている遊びなど）
- 6月 科学博物館へ遠足に行く（児童と幼児混合の班編成）
- 7月 小学校のプールで遊ぶ（ペアで遊ぶ）

2学期：5年生の活動を見ることで憧れをもって自分たちの活動に取り入れる

- 9月 小学校との合同運動会に参加する
- 10月 応援団のやり方を教えてもらう（小学校の休み時間に一緒に遊ぶ）
幼稚園の運動会に招待する（自由参加・幼小応援団のコラボレーション）
- 11月 音楽会を視聴する
- 12月 生活発表会に小学生を招待する




3学期：小学校生活に関心や期待感を深める

- 1月 1年生との交流（体験授業・給食）
展覧会の共同作品を一緒に作る（作品を一緒に鑑賞する）
- 2月 5年生が修了式に展示する幼児の等身大の絵を描く（お祝いの言葉が添えられる）

「忍者の修行だ うちのチームの仕掛けに挑戦して」 11月
 ～多様な運動にチームで取り組み、主体的、共同的に遊びを進める楽しさを味わうために～

活動選択の理由： 運動会以降、5歳児はグループでの遊びも多くなり、互いに思いを出し合い、調整し合って遊びを進めようとする姿が多く見られるようになった。そのような中でヌンチャク作りから忍者をイメージした遊びがグループで広がってきた。そこで、各グループの多様な遊びをクラス全体の遊びとして取り組むことで、情報量も多くなり、遊び方の工夫を互いに気付き伝え合う場も増えてくる。そのような場は、思考力や協同性、豊かな表現力を伴う遊びに発展していくと考えた。

ね ら い： イメージを共有し、様々に体を動かして遊ぶことを楽しむ。
 友達と一緒に共通の課題に向かって取り組む。

活動の流れ 幼児の姿	アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫 ○保育者の援助 ☆環境の構成
<p>前日に、ホールとクラスで修行することに決め、場所作りや、修行を楽しみに登園してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスに届いた巻物に興味をもち、『修行のきまりを守り、力を合わせて挑戦！』の指令に互いに顔を見合わせ「簡単！」と言い合う。⑧⑨ <p>グループで準備をする③⑤⑥⑨</p> <p>仲間や保育者と相談しながら場所を決め、必要な物を用意する。(修行名やルールの表示)</p> <p>係りと修業に出る幼児の役割や分担や交代の方法を決める。(メンバーの半数が説明で残るルールを確認する・1回巡ったら交代する等)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・修行の場の間隔や危険なところはないかグループ同士で準備ができているのかなどを確認する。 ・巡り方はどうするのか(グループごとに好きなところから巡ろう)必ず全部巡ることにする。 <p>修行開始①②③④⑤ ⑥⑧⑨⑩</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーで助け合い鉢巻をしめる。 <p>しめてあげる！</p> 	 <p>グループでクリアするんだ！</p> <p>忍者村から届いた！</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動への期待感を高めるとともに、忍者ごっこで身に付けたいことを各自が意識するように、巻物を使い視覚と言葉で幼児が集中する雰囲気を作る。(目標を意識付ける) ○全体で、修行の場を見て回り、自分たちのグループは、初めに何の修行に挑戦するのか期待感やイメージをもって話し合う時間をとる。 ○グループごとに一人一人のつぶやきを最後まで聞くことや、相手に分かるように話そうとしている姿を認め励ます。 ○互いに思いや提案を自由に交わせるように援助する。 <p>☆修業の場は安全に遊ぶように配慮し、場の間隔や待つ場所などを幼児にも注意を促す。</p> <p>☆巧技台の高さや多様な動きに応じて、着地用のマットの枚数や広さなどに配慮する。</p> ○自分でつけられるように、鉢巻に輪ゴムを巻いたものを用意するとともに、互いに助け合って締め合う姿を認める。

- ・大勢並ぶと「忍者は隠れて待つこと！」と係がとっさに呼びかけ、他のメンバーが段ボールで隠れ場所（待つ場所）を作る。係の指示通り待ったり先に進んだりしている。
- ・修行の内容に沿った動きを友達と合わせながら、必要な道具を作り友達と同じ目的に向かい協力して声を掛け合って次の修業に進んでいる。



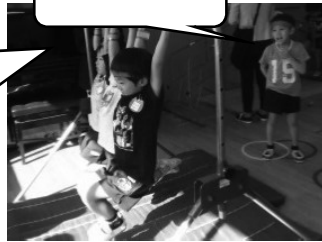
3人一緒に行けば絶対できる！

1人でも落ちたらやり直しだって！
頑張るぞ！

みんな一緒にクリア！
成功したよ！



10数えて！



- 忍者のイメージで遊びを進めている姿に「素早い動き！すごいね！巻物通りだね！」と自分の行動を意識化させ、賞賛し自信をもたせる。
- 自分からいろいろな修業に挑戦し体を十分に動かしている姿、工夫して作ったり試したりしながら遊んでいる姿を声に出して認める。
- それぞれの修業の場で、グループでどのようなイメージをもっているのか、何に挑戦しようとしているのかを確かめる。その中で一人一人の挑戦を認め励まし、自分なりの達成感をもてるように援助する。
- 友達と一緒にいることに意識がもてるようにする。
- 一つ一つの修行を楽しみ、目的意識をもち、ルールを守って取り組んでいるのかを見る。
- 責任をもって係りの仕事を果たしている姿や係りの指示に従っている姿を認め励ます。
- 友達と声を掛け合い助け合って挑戦したことを認め、やり遂げた達成感をもてるようにする。
- 振り返りでは、楽しかったこと、挑戦したこと工夫して作った道具、友達と力を合わせたことや次の遊び方の提案などを発表できるように、ポイントを明確に意識付ける。
- ☆鉢巻きの片付けは色や数が分かる箱を備え、数の過不足を意識化させる。

1本たりない



後日、遊びが続くと～

その1 全部クリア 次は仲間全員で決めのポーズや係りの仕事を考えよう

- 修行の場の係は、挑戦するグループの様子をよく見て終了のスタンプを押す仕事を加えた。②③④⑥
- 高跳びやぶら下がり術では、「限界まで挑戦！もっと難しくしよう」などの声が出てきた。

<高跳びの術> 「巧技台を高くして崖から飛び降りるようにしたい」 ①②③⑥⑧⑨

- ・巧技台を140cmに積み上げた。(着地に厚さ40cmを1枚、5cmのマットを2枚保育者が提案し「柔らかい野原に足をそろえ膝を曲げて音もなく～」と跳び方のイメージを再確認した) 高さに抵抗感を示すメンバーがいた場合は低い台(70cm)を用意した。(不得意なことでも挑戦すること、ケガをしないことの大切さ、助け合う意味などについても全員で話し合い納得したことで一体感がもてた)

<ぶら下がり術> 「ぶら下がる時間を長くする。いろんな格好を試したい」 ①②③⑥⑧⑨

- ・ぶら下がる時間を10から30まで伸ばす、【ブタの丸焼き】【片手ぶら下がり】

【両足ぶら下がり】など、メンバー全員が出来るものをグループごとに決めた。

- 終わった時の「決めのポーズ」は各グループが考え、全員が終了後かっこよく揃ってとることにした。①②③⑥⑧⑨

- ・グループ独自の表現を全員で試し納得のいくポーズをきめた。その後、新編成のメンバーでの取り組みでもチーム意識を高める手段として真っ先に行っていた。③

保育者も環境！
幼児も引きこまれます！



その2 ぼくが3歳だったら～私が4歳だったら ～ 怖くない修行にしよう

3、4歳児が関心をもって5歳児の忍者ごっこに参加したいと言ってきた。担任が付き添い、できるところだけの参加で20分くらいの時間となった。その日の振り返りで「もっと遊びたいかな」「このままじゃ危ないよ！3歳でも遊べる修行にしよう」、などの工夫を出し合った。

○3、4歳児には、安全な方法で修行のモデルを見せることにした。②③④

○3、4歳を別の日にするのか一緒にするのかから始まり、「3歳は、ちゃんと見てあげないと危ない」「4歳だって一人じゃ危ない」「別の日にすればちゃんと見てあげられる」「4歳は3歳より高くても大丈夫だよ」と思いを伝え合った。②③④⑥⑧⑨

○分担した修行の場では、3歳児には必ず5歳児が一人付き添うこと、4歳児には、一人ずつ進むように声を掛けることや、怖がる場合には付き添うことにした。②③④⑥⑨



一緒にいこうね♪

アプローチカリキュラム 10月～12月

生活：周囲の状況や友達の動きや気持ちを受け止めながら、体を思い切り動かす心地よさを味わう活動

人とのかかわり：クラスや園全体で取り組む中で、みんなで気持ちを合せ、やりとげる楽しさを味わう活動

学び：身近な事象や友達の活動から、気付いたことや思いを感じ取ったり、取り入れたりする活動

アプローチカリキュラムで大切にしたいポイント

<ポイント>

① 私たちの作った修行の仕掛けに挑戦して

他のグループに修行の仕方やコツを教えよう

グループで作った修行の場を、自信をもってみんなに伝えるための工夫

- ・自分たちが何をイメージして取り組んだのか、一人一人の思いや提案が生きるように、仕掛けを見ながら話し合う。役割の内容はグループで共通理解した上で分担を決め、実際の動き方や話し方を確認し合う。
- ・実際に動いて仕掛けを見せながらクラス全体に挑戦方法を伝える。
- ・修行の場では、必ず係りの指示を守ることをクラス全体で確認する。



② みんなで考えよう 最後まであきらめないぞ

グループ全員がクリアするまで、助け合って頑張ろう

グループで助け合って最後までやりとげるための工夫

- ・修行に不安感をもつ友達を励ましたり助けたりする幼児を認め励ます。
- ・みんなで協力し合ってクリアできたこと、作った仕掛けに友達が挑戦し、分担を果たしたことなどの達成感を保育者も幼児と共感し喜び合う。
- ・振り返りで修行や係の仕事を協力し責任感をもってしたことをグループごとに発表する場を作り、ゆったりした時間をとる。



③ 修行はだんだん難しくなるよ みんなで考えて挑戦しよう

めざせ カッコいい忍者 みんなで試そう 力を合わせよう

難しい修行を考えたり、年下の友達を受け入れたりする課題に向かい協力して遊びを進める工夫

- ・修行をもっと難しくしようと次の課題に向かう意欲を助長しながら、一部の幼児の思いが先行しないように、発言しにくい幼児の気持ちを確かめ少しずつ試しながら進めるように助言する。
- ・みんなで協力し合って進めてきたことを再確認し、全員ができることや協力し合うことを改めて意識付ける。
- ・異年齢児との交流は、相手に応じて修行の場を工夫したことを活かし自然な形で年下の友達の気持ちを察し寄り添う気持ちを育てる。

本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・修行の内容にあった体の動きを自分なりに考えて取り組む。 ・安全な修業の方法で取り組む。
② 自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から目的をもち場作りや修行、係に取り組む。 ・仕掛けに自信をもつ。
③ 協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに思いを出し、助言し合い責任をもってグループの一員として取り組む。 ・みんな一緒にクリアしようと励まし合う。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・修行の場のきまりを守り、前のグループをせかさない。 ・年下の友達に優しくする。
⑤ 社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・忍者屋敷の経験など、知っていることを友達に伝え本物らしい仕掛けや動き方にする。
⑥ 思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けを考えたりクリアする方法、係の役割を考える。 ・修行を難しくする。 ・決めのポーズを考える。
⑦ 自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> ・年下の友達が安全に遊べるように、気を付け支える。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・グループのマークを作る。 ・看板を描く。 ・修行で数を唱える。
⑨ 言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで互いに思いを言葉で話す。 ・修行に必要な言葉を、伝え合う。 ・係の言葉を相手に分かるように伝える。
⑩ 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・修行の場を目的に応じて作る。 ・武器を工夫して作る。 ・グループで決めのポーズを表現する。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- いろいろな運動を通して多様な動きに親しみ、友達と一緒に体を思い切り動かす心地よさを味わうようにする。
- いろいろな運動に挑戦しようという気持ちを励まし育てる。
- 幼児が安全を意識する視点を広げていくためには、自分が動くときに周りを見るなど周囲への意識をもつようにすることや、安全に遊ぶための高さや位置などを考えながら運動用具の準備や後片付けも保育者と共に安全に気を付けて行動することを継続して進める。
- 状況に応じて一人でできるもの、数人で協力してするものなどの判断ができるようにする。
- 道具作りなどで使った道具などの後始末を最後まで自分でするとともに、グループでも確認するようにする。

〈人とのかかわり〉

- グループで話し合いをしたり場作りをしたりする中で、グループの一員として自分の思いや考えをメンバーに伝えるとともに友達の思いを察したり、気付いたりしたことなどを言葉にして相手に伝えるように意識付ける。
- 保育の振り返りなどでは、友達のよいところや修行などで困ったことを伝えあう場を作り、友達と認め合う意識の育ちを促す。
- 友達と協力し合って遊ぶ楽しさ、友達と一緒にだから味わえる充実感を感じさせられるようにする。
- 異年齢の友達との触れ合いでは、相手の思いを察して行動し、安全に遊べるように配慮する




〈学び〉

- 幼児の気付きや提案、関心の方向、疑問点などにしっかり向き合い、その課題を整理して返し、自分から課題解決に向けて主体的な行動につなげていく。
- より本物らしく身に付けるものを試しながら作り、友達からの刺激を受けて自分で考えるように、教材や場の設定を幼児の要望に応じられるように準備する。
- チャレンジする意欲を大切にしながら集団での同意が必要な時は納得して行動できるように仕向けていく。

「みんなでルールのあるゲームを楽しもう」 11月
 ～フラッグボールに挑戦 協同的に遊びを進める楽しさを味わうために～

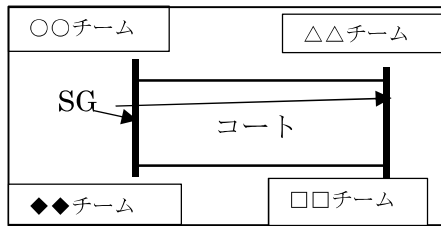
活動の選択理由：11月下旬、5歳児は友達といろいろなゲームを楽しむ中で、ルールに沿って動いたり、ルールを変化させたり、互いに意見を出し合っって遊びを進めていく姿が見られるようになる。フラッグボールは、友達と考えを伝え合いながら作戦を考えたり、新たなルールを考え合ったりできる活動である。多様な動きを楽しむ中で協同的な遊びに発展していけるのではないかと考えた。

ねらい：友達と作戦を考え合ったり、声を掛け合ったりしながらゲームを楽しむ。ゲームの開始、終了時にはきちんと挨拶をして互いを認め合う。

活動の流れ 幼児の姿	○保育者の援助 ☆環境の構成 アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・フラッグボールのチーム分けの内容を聞き、各チームで集まる。②③⑨ <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・チームごとリーダーを決め、チーム名を決定する。③④⑨⑩ ・対戦相手を決める。(あみだくじ、じゃんけん等) ・対戦表で相手を確認する。 対戦表を見て、チームごとにどのような作戦にするか個々に考えようとする。②③⑥ <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ホールへ移動する。 ・チームごとに座る (マットを設定する) 	<p>☆ホールの広さを考え、幼児が余裕をもって動ける人数に配慮する。4チーム構成し、2チームずつゲームを行い相互に見合えるようにする。</p> <p>○チーム意識がもてるように、チーム名を話し合いで決めていけるようにする。一部の幼児の思いで決まることのないように話し合いの状況を見守り、助言する。</p> <p>☆テーブルを利用し落ち着いて話し合いを進められるようにする。</p> <p>○意見の食い違いがあったり、互いの意見がぶつかったり、なかなか決まらない時も、個々の様子を把握しながら最終的には、自分たちで決定できるように促していく。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>☆対戦相手を確認することで作戦を変えていくことができることを知らせていく。(1回戦ごとに書くか、対戦表を使用する)</p> <div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">(): 得点記入</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>① ○○チーム()× △△チーム()</p> <p>② ◆◆チーム()× □□チーム()</p> <p>③ △△チーム()× ◆◆チーム()</p> <p>④ □□チーム()× ○○チーム()</p> </div>

- ・ルールを聞く。(全体で)

<配置図>



- ・攻撃の作戦、守備の作戦を考えて友達に伝える。③⑥⑨
- ・次の作戦を考える時に自分の意見だけではなく、友達の話も聞こうとする。⑨
- ・チームごと、整列し試合の始めと終わりの挨拶をする。①④
- ・ゲームを楽しむ。①③⑥⑨



- ・他のチームの動きを見たり応援をしたりする。②③⑥⑨
- ・互いのチーム発表を聞き、次回の対戦に意欲をもつ。②⑧⑨
- ・勝敗に気持ちが左右され喜んだり、落ち込んだりする。⑩
- ・友達のがよかったところ、自分たちのうまくいったところなどを発表する。④⑥⑨



☆ルールの確認をする。

- *得点=ゴール:3点、フラッグ:1点
- *スタートライン、ゴールラインは対戦ごとに入れ替わる。
- *ゴールはゴールラインを越えてOKとする。
- *フラッグは、一人1本とする。
- <攻撃チーム>
 - ① パスは前だけ。
 - ② 友達に当たらないようにする。
 - ③ フラッグを取られたらボールは持てない。
- <守備チーム>
 - ① 攻撃チームのフラッグを取れる。
 - ② パスをカットできる。
 - ③ 攻撃チームのSGラインを越えてはいけない。

- 作戦タイムの話し合いでは、発言した幼児の考えがチーム内に伝わっているかを見ながら、必要に応じて橋渡しをする。
- 試合ごとに始めと終わりに挨拶をすることで相手を確認し、試合後はお互いの頑張りを認め合えるようにする。
- 試合終了後、紐の数を一緒に数える。



- ☆1回のゲーム時間を決めて、タイマーで知らせるなど分かりやすくする。
- ☆作戦タイムを十分に取るようにし、対戦チームの誰がボールを持つのかも知らせ作戦を立てやすくする。
- どんな作戦が成功したか、失敗したか、次はどうしたらよいのかなどの視点を伝える。
- 1回ごと見て分かるように対戦表に点数記入と勝ったチームにしるしを付ける。



- 活動の振り返りでは、互いを認め合いながら色々な作戦があることを知らせ、達成感や次回への期待につなげる。

アプローチカリキュラム 10月～12月

- 生活：周囲の状況や友達の動きや気持ちを受けとめながら、体を思い切り動かす心地良さを味わう活動
- 人とのかかわり：クラスや園全体で取り組む中で、みんなで気持ちを合わせ、やり遂げる楽しさを味わう活動
- 学び：身近な事象や友達の活動から、気付いたことや思いを感じ取ったり、取り入れたりする活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント ＜ポイント＞

① 気付いたことや考えを伝え合う

対戦チームへの作戦を考え伝え合う。考えを相手に理解してもらえよう話す。いろいろな考えがあることに気付く。

ゲームを進めるための工夫

- ・作戦タイムの中で、相手チームの動きをみんなで確認し、どう動いたらよいのかなど意見を出し合えるように援助する。
- ・幼児の発言がチームの中に伝わったかを確認したり、他児の発言を促したりして、いろいろな考えに触れられるようにする。その中でチームが勝つための作戦を明確にして、グループ内で共有できるようにする。
- ・友達の発言に耳を傾けている姿を捉え、話し合いの態度を身に付けていけるようにする。
- ・振り返りでは、一人一人の意見や感想を認めて価値付ける。



② 体を思い切り動かす心地よさ

友達の動きに目を向け、体を動かすゴールを阻止する、タグを取るなど目的を理解する

いろいろな動きを理解するための工夫

- ・ボールを追いかける、フラッグを狙う、ゴールを阻止するなど、具体的な作戦内容にして役割を分担する。
- ・役割分担することで、目的が明確になり思い切り体を動かすことができる。
- ・スタートとゴールを決め、広さを確保する。
- ・互いに役割を達成できた時の心地よさを味わうことで、よりいろいろな動きに挑戦してみようとする。



新しいゲームに挑戦！

平成23年度から実施された小学校学習指導要領の体育に、フラッグフットボールとタグラグビーが例示され、この2つが指導要領解説書に掲載された。両ゲームともフラッグ・タグが取られるとプレーが止まり、作戦タイムとなる。

運動量が多すぎず、役割をそれぞれが担うことができ、集団活動の中で各自が達成感を味わうことができ、コミュニケーション能力も高められることができるという効果があると言われている。

幼児教育に
取り入れる
時の
ポイント

紐取りゲームより、様々な動きがあり運動量が多い。今までのルールとは異なる条件が加わってくる。

フラッグボールを楽しむためには、子供同士の協同性や道徳性、規範意識の芽生え、数量等への関心・感覚、言葉による伝え合いが必要となってくる。

友達と作戦を立てるために考えたり、友達に分かるように伝えたり、体を十分動かして遊びを楽しんだり、一人一人が自分の力を発揮することができる。

本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	・友達と作戦を立て、ゴールに向かってボールを持って走る、フラッグを取る、シュートを阻止するなど様々な動きがあり、十分体を動かすことができる。
② 自立心	・友達と一緒に考えた作戦でゲームを楽しみ、達成感を感じる。
③ 協同性	・チームごとに名前やリーダーを決めたり、作戦を考えたりする。相手チームの動きを見ながら作戦を進める。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	・チームで立てた作戦が得点につながらないこともあるが、互いに声を掛け合い楽しくゲームを進める。チームのよい所に気付き、互いに認め合う。
⑤ 社会生活との関わり	・他チームの作戦に関心をもち、ゲームに生かそうとする。
⑥ 思考力の芽生え	・対戦相手やチームメイトのことを考えながら作戦を立てていく。他チームのよさに気付き、取り入れようとする。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	・対戦表などを活用することで、数量や図形・文字等への関心が深まる。
⑨ 言葉による伝え合い	・作戦を立てる時、相手に分かるように話したり、理解しようとしたりしながら折り合いをつける。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

<生活>

- ・いろいろな動きを取り入れたゲームの教材開発に努め、全身を十分に動かして遊ぶ楽しさを存分に味わえるようにする。
- ・ゲーム開始前後の挨拶を元気よく行ない、互いを認め合うことの大切さを伝える。
- ・作戦を実行し最後までやりとげられるように、頑張っている姿を認めたり、保育者も幼児と共に動いたりする。

<人とのかかわり>

- ・自分の考えをチームに伝えようとしたり、相手の話に興味をもって理解しようとしたりなど、必要に応じて話し合いの仲立ちをして、話し合いの仕方が身に付くようにする。
- ・作戦を立てる中で、自分の思い通りにならない場面では、幼児の葛藤の過程を見守り、自分の気持ちを調整する力をもてるように寄り添っていく。

<学び>

- ・ゲームを繰り返しながら自分たちで相談し、協力して進めていく姿を目指す。
- ・相手チームの試合を見て動き方の特長を捉え、作戦作りに生かす。
- ・得点表などを使い、数量・図形文字等への関心を高める。



フラッグフットボール・タグラグビーの幼児版として「フラッグボール」としました。

「フラッグボール」は、小学校の体育科でも実際行われているフラッグフットボールやタグラグビーをもとに幼児でも楽しめる内容にしたものである。幼児教育で行う際は、ネーミングから子供と一緒に考えることができ、ルールもその時の幼児の状況に合わせて工夫することができる。

<<工夫例>>

- ・フラッグボールの前段階として、チーム対抗紐取りゲームをする。ルールは、紐は1本、取られたらコートを出る、全員が紐を取られたらゲーム終了。さらに作戦を考えたり、対戦時間を決めたり、残りの紐の数で勝敗を決めるなどして発展させていく。
- ・チーム決めは実践を重ねながら行い、後半は子供たちで決めていく。
- ・フラッグが取られてもボールが持ててゴールもできる。
- ・フラッグの数を2本に増やし、1本取られたらボールが持てない。

「すごろくを作ろう」 12月



～グループで目的を共有し、協力して作り上げる達成感を味わうために～

活動の選択理由：年長児後期、5歳児はグループで話し合いながらイメージを共有し、目的を達成しようとする姿が見られる。また、文字、記号等への興味が高まり、それらを用いながら活動することを楽しめるようになる。

冬季の遊びの一つに「すごろく」がある。既成のすごろくで遊んだ経験を基にして、グループですごろく作りに取り組む中で、下記のねらいを達成したいと考えた。

ね ら い：グループの友達と思ったこと、考えたことを伝え合い、イメージを共有しながらすごろくを作り、達成感を味わう。

文字、数、記号等への興味・関心を高め、すごろく作りを楽しむ。

活動の流れ 幼児の姿	アプローチカリキュラムを取り入れた指導の工夫 ○保育者の援助 ☆環境構成
<ul style="list-style-type: none"> ・学級でグループごとに集まり、すごろく作りについて話を聞く。 ・すごろくの台紙になる紙や使う材料について話を聞く。⑥⑨  <ul style="list-style-type: none"> ・すごろくにはどんなすごろくがあるか、これまでの経験をもとにして、知っているすごろくのテーマを学級で出し合う。⑨ ・グループですごろくのテーマを話し合う。 ・学級で各グループのすごろくのテーマを出し合う。③⑤⑥⑨ 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで1枚の紙面を共有することを伝え、紙の大きさへの興味や期待が高まるように、すごろくを作る紙を提示する。 ○「もぞうし(模造紙)」という紙の種類への興味をもてるように、紙の名前をゆっくり伝える。 ☆5、6名で構成するグループに対して、全紙の半分の大きさの紙を用いる。 ☆描画材料や用具は、日常的に扱い慣れているフェルトペン、色鉛筆、糊、はさみ等を用いる。 ☆幼児から出た考えをホワイトボードに書く。文字だけでなく、分かりやすく絵でも表してして全員に伝わるようにする。 ○グループの話し合いの様子を見守り、個々の幼児が参加していけるよう支援し、メンバーが納得できるように促す。 

- 必要な材料を揃えてテーマに沿って取り組む。⑥⑩
- マスの用紙に文字や絵を描いたり、すごろくの台紙に貼ったりする。
- 台紙に「○○すごろく」とタイトルを書き込む。
- マスの紙文字を自由に書く。
- マスの紙の形の線に沿ってはさみで切り、切った紙を文字を書く友達に手渡す。

⑧⑨⑩



- 発表会があることを知り、使ったものを元の場所に戻したり、自分の持ち物を片付けたりする。①②⑥
- 身の回りの整理が済んだら、着席する。①③

- グループごとに前に出てきて、すごろくの内容や工夫した点について伝える。⑨
- 他のグループのすごろくのよい点や面白い点を中心に感想や思ったことを話す。⑥⑨

☆すごろくの紙面を構成するマスの用紙は、幼児が扱いやすい大きさに配慮して丸、四角等を色画用紙に印刷しておく。



○各グループのマスの言葉に共感しながら進捗を認め、幼児が他のグループの様子を見合う時間を作って参考にできるようにする。

☆分からない文字については、50音表を用意したり、幼児同士で教え合ったりできるように促す。

○すごろくの紙面ができ上がってきていることを認めながら、途中経過を全体で見合ったり、伝え合ったりすることを知らせる。



☆全体がよく見える高さですごろくの紙を掲示する。

○活動の振り返りでは、個々のグループがテーマに合ったすごろく作りに取り組んだこと、これから完成に向けて楽しみなこと等を伝える。また作ったすごろくを使って遊んだり、他のグループのすごろくでも遊ぶことを提案したりして、本日の取組みへの達成感や今後の期待を高めたりする。

その後の活動

○すごろくの仕上げ

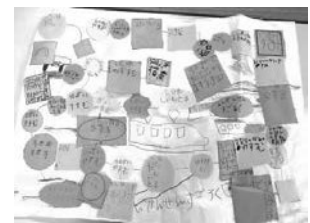
後日全グループが仕上げを行った。紙面の構成のイメージを確認するようにして、取り組みの内容を明確にすることで活動を楽しめた。

○すごろく遊び・追加のマス作り

完成したすごろくで遊んだ。楽しんでいる一方で、「またお休みになっちゃった」「つまらない」（10回休み等のマスが多く書かれたグループがあった）との声が上がった。

楽しく遊ぶために、マスを追加して最初のマスの上にセロテープで貼りつけ、最初のものと追加のものが両方見えるようにした。

○他のグループのすごろくの作品を交換しながら遊べるようにした。他のグループのすごろくにも興味をもって遊び、面白いところ、分かりにくいところについて伝え合えるようにして改善につなげた。



アプローチカリキュラム 10月～12月

- 生活：周囲の状況や友達の動きや気持ちを受け止めながら、体を思い切り動かす心地よさを味わう活動
- 人とのかかわり：クラスや園全体で取り組む中で、みんなで気持ちを合わせ、やり遂げる楽しさを味わう活動
- 学び：身近な事象や友達の活動から、気付いたことや思いを感じ取ったり、取り入れたりする活動

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント 〈ポイント〉

① やり遂げる楽しさ

グループの友達と完成を目指して取り組む。

すぐろく作りへの意欲を高める工夫

- ・すぐろく作りへの興味を高められるように「すぐろく」遊びの楽しさを存分に味わう経験を重ねる。
- ・じっくり取り組めるように、活動を長期的に計画し、取り組みの時間を保障する。「今の時間で完成しなくていいですよ。また明日続きをしましょう。」等、ゆとりを感じられるようにする。
- ・途中経過への関心を高める。グループの作品をクラス全体で見合い、よい面に目が向けられるようにして、感じたことを相互に伝え合う場をもつ。「どんなすぐろくができたか、発表会をしましょう。」「いいなあ、と思うところはどこ？」等の投げ掛けを返す。
- ・楽しくすぐろく作りが進められるように、すぐろくの台紙の大きさ(全紙の1/2) や貼るマスの大きさ(約8cm四方)や色(明るい色3、4色)、形(四角、円形、ハート型など)に配慮する。
- ・使い慣れた、個人持ちの描画材料を使って自分のイメージを表しやすくする。



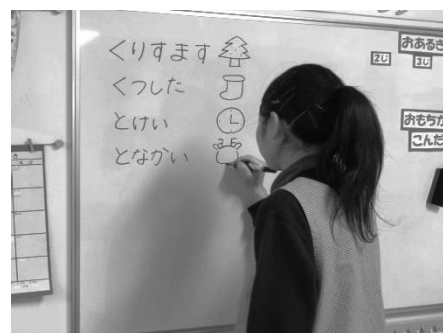
② 友達の思いを感じ取る

友達の取り組みに関心をもつ。

グループ相互の取組みへの関心。

イメージの共有を支える工夫

- ・グループですごろくのテーマについて話し合い、その結果をクラスで伝え合う時はボードに文字だけでなく、絵も描いて分かりやすく知らせる。
- ・マス作りにおいて個々の幼児の取り組みを言語化し、幼児がグループのメンバーの思いを明確に感じ取れるようにする。
「クリスマスのすぐろくだからツリーを描いているのね。」など、幼児の取り組みを受け入れながら、言葉を掛けていく。
- ・各グループの取組みの様子の情報を必要に応じて全体への刺激となるように伝える。
「すぐろくのタイトルを真ん中に書いたね。」「新幹線すぐろくの新幹線がたくさん描けたね。」など、各グループの特長を捉え、全体にさり気なく知らせる。他のグループの取組みを知ることで自分たちのすぐろく作りに取り入れようとしたり、自分のグループの特長をより強く意識したり等の姿がある。いずれの場合もグループごとに自分たちのすぐろくに愛着を感じられるように働き掛ける。



本事例と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

① 健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の身の回りを意識してはさみ等を安全に使う。 ・制作しやすいように必要に応じて物を片付ける。 ・活動後の片付けをしっかりと行う。
② 自立心	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の目的を意識して、最後までやり遂げ、達成感を感じる。
③ 協同性	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達とイメージを共有し作品を仕上げる。
④ 道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・紙面を共有し、順番に自分のマスを貼っていく。 共有の材料、用具は順番に使う。
⑤ 社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの取組みにも関心をもって取り込む。
⑥ 思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・「季節すごろく」では、季節のイメージを絵で表す。 ・すごろく遊びの経験を生かして、楽しい内容を考えて書き込む。
⑧ 数量・図形・文字等への関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を示す数を用いる。 ・イメージに応じてマスに文字を書く。 ・すごろく遊びの「休み」の回数に興味をもって数える。 ・興味をもって数字で表そうとする。 ・さいころの目を数える。
⑨ 言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> ・目的が分かり、自分の思ったことや考えたことを話す。 ・相手の思いを聞いて理解しようとしたり、受け入れたりする。
⑩ 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくの題名から受けるイメージを広げて、絵や文字で表す。 ・他のグループの作品や友達の言葉からイメージを膨らませる。

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること

〈生活〉

- ・園生活を振り返る中で、幼児なりに成長を感じることで1年生になることへの期待を高める。
- ・保育者や友達の話を最後まで聞いて、分かろうとしたり、自分の経験や考えについて話したりする。
- ・安全への意識を高めながら、園内外における生活の仕方について考える場や機会をつくる。

〈人とのかかわり〉

- ・幼児同士が互いに受け入れ合ったり、認め合ったりできるような活動を作り出す。
- ・仲間(チーム)意識をもち、友達と作戦を考えたり、一つのものを作り上げたりなど、みんなで力を合わせて楽しめる活動に取り組めるようにする。
- ・幼児同士が考えを出し合う場面では、やり取りの状況に応じて自己コントロールの経験が身に付くようにする。

〈学 び〉

- ・自分なりに考えたり、試したり、挑戦したりすることが繰り返し楽しめる時間、場、材料等の環境を用意する。
- ・クラスの課題を自分のものとして受け止めて力を発揮できるように、課題の内容や取り組み方を分かりやすく伝え、理解できているか、幼児の様子を捉えながら取り組み方を認める。
- ・季節の移り変わりや1年の巡りを自分の生活や成長と合わせて捉えられるようにする。

「体験入学 小学校ってどんなところかな」 2月

～「小学校探検」・・・期待や希望をもって園生活を充実させるために～

保育者の願い

11月には、幼児たちは保護者とともに就学時健診を受けている。その際に学校の概観をもったり、同じ学校に入学予定の他園の園児たちと顔を合わせ、緊張や不安を抱いた子や大勢の友達ができる楽しみを感じた子もいたりする。

小学校入学が目前に迫る2月始めのこの行事は、幼児にとっては2回目の学校や人との出会いとなる。

保育者も体験入学に参画し、自園や他園の幼児の成長の様子を観察するとともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえながら幼児の成長を見つめ直し、卒園・修了までの1・2ヶ月間をどう過ごしていくか熟考することが大切である。一人一人の成長を目指したきめ細やかな援助と、友達や保育者等と楽しく充実した園生活を送ることのバランスを保ちながら見通しをもった保育を展開していきたい。

活動のねらい、援助・指導

幼児（就学予定児）

- 1学年児童や教師、他園の園児と触れ合いながら、授業を受けたり、みんなと一緒に給食を食べる嬉しさや楽しさを体験したりすることを通して、小学校の児童や教師、教室、そこで行われている教育活動を知り、小学校へのイメージや期待感をもつ。
- 小学校での体験活動を通して、自分にもできると自信をもったり、できるようになりたいと感じたりしたことを、園や家庭生活の中でやってみようとする意欲をもつ。
- 1学年や高学年の児童や、他園の園児と出会い、4月から友達になりたいと入学を楽しみにする。

保育者の援助

- 体験入学の活動内容を伝えることで見通しをもたせ、緊張感を和らげ期待を持てるようにする。
- 挨拶の仕方や質問の仕方を伝え練習しておく。小学校の先生の指示に従うこと等について話し合っておく。
- 安全面に気を付ける所や、困ったことが起こった時の対処について話す。

幼児と児童がペアになって移動開始



児童（1学年）

- 幼児を案内したり、一緒に授業を受けて学習の仕方を教えたりする活動を通して、もうすぐ4月に入学してくる幼児たちを新1年生として意識したり、2年生(上学年)になる自覚を高め嬉しさを味わう。
- 幼児と一緒に活動を通して、自分にできることへの自信をもったり、自分自身の課題に気づき、改善したり向上させようとする意欲をもつ。
- 幼児を連れて学校を案内することで、2学年になって行う生活科の活動「学校探検」(1・2学年のペアでの学習)のイメージや見通しをもつ。

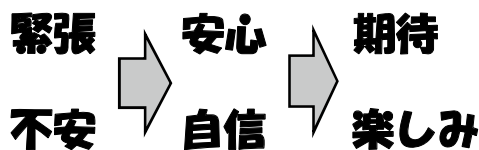
教師の指導や準備

- 幼児を迎える準備をし、1年児童へ指導をしておく。
 - ・体験授業では、椅子の座り方、姿勢、話の聞き方、手の上げ方など、幼児の見本になるようにする。
 - ・園児が楽しく活動できるようにするには、どうしたらよいか考えさせる。
 - ・楽しく給食を食べるためには、どのようにするか考えさせる。
 - ・安全に活動するために気を付けることを考えさせる。そのほか、次の指導をしておく。
 - ・名前ペンダントの作成・各グループの学校紹介の練習
 - ・司会児童の指導・給食の段取りや幼児への対応の仕方
- 体験入学の準備を学校体制で行う。
 (例)・参加申し込みや名簿作成
 - ・当日の表示等、机上の名札、歓迎の言葉や絵を描く。
 - ・学習教材の準備(1学年) ・実施内容や進行
 - ・給食献立や食物アレルギーのある幼児への事前対応



※当日の体験授業や給食は、保育者もTTで指導する。(事前に連携)

初めての
授業・給食
体験



- ・ペア・トリオでの体験活動
- ・動的な楽しい活動を組む
- ・視覚に訴える教材を用意
- ・幼児が好きな食材を工夫

ようこそ 小学校へ 「小学校しょうかい(児童)」と「しつもんコーナー(幼児)」



「国語では〇〇をしたりします。」



「標準服と帽子、ランドセルに上履きです。」

幼「もし、授業中にトイレに行きたくったら行けるんですか？」
児「手を挙げて先生に言うと、行かせてくれます。」

幼「ぼくは、食べ物で嫌いなものがあるんだけど、残したらだめですか？」
児「大丈夫です。食べ始める前にへらしに行ったらいいんです。」

<「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」との関連：①②③④⑤⑥⑨>

学習体験：算数・図工(合科)
「形を使って おにのおめんをつくろう」



丸や三角・四角を使って：「そのやり方でいいよ」



「1年生みたいに挙手します」 <①②③④⑤⑧⑩>

給食準備／給食体験



6年生が配膳手伝い
「お盆は横の真ん中を持つのよ」



「これでいいかな？」



「ね、おいしいでしょ?」「うん」

<①②③④⑤⑥⑦⑨>

「楽しかった園生活 先生 友達 ありがとう」 3月 ～残り少ない園生活を、ゆったり楽しく充実して過ごすために～

保育者の願い

3月に入って、修了や小学校入学が目前に迫ると、修了までの行事などで気ぜわしい雰囲気が出てくる。保育者はそのような雰囲気に流されず、ゆったりと楽しく充実した園生活を展開したい。その中で幼児の成長を見つめ直し、一人一人を生かすきめ細やかな援助を進めたい。一人一人の幼児が、残り少ない日々を周りの人々や友達との温かいつながりを感じながら、成長した喜びや自信をもって修了し、小学校生活への夢と期待を育むように機会ごとに意識付けていく。

その1 クラス全員でドッジボールを楽しもう ～友達と心を通わせ自分の力を発揮しよう～

- クラス全員で修了までの日を数え、今までした活動を思い出し、楽しかったことやみんなと一緒にしたい遊びについて話し合った。ドッジボールやサッカーごっこ、宝取り鬼など、特に最近幼児たちが好んで遊んでいた、チーム対抗のものが多く上がった。
- チーム対抗で負けた悔しさを受け入れられずに、気分転換をしにくかった幼児が「試合は負けることもある！オリンピックと同じだね」と友達と笑顔で話していた。以前、保育者が聞かせたスポーツマンシップのエピソードを思い出し、ドッジボールと宝取り鬼に笑顔で賛成し、全員の思いが一致した。
- 今日は、ドッジボールをすることになり、登園時から互いに誘い合い「早く、じゃんけんでチーム分けしよう！」と呼びかけ、遅く登園した友達に「Aちゃん、こっちのチームに入る？」と誘っていた。
- 外野の幼児も「パス！パス！」という言葉に呼応し、相手チームに効率よくボールを当てることを目的とするチームとしての一体感が出ていた。



Aちゃんこっちは
はいつてくれる？

幼児の発達に応じて、園全体で系統的にドッジボールの指導を重ねてきた

- ・「転がし中ぶつけ」に年少の頃から親しみ、次第にルールを変えながら、自分たちの遊びにしていった経緯があり、クラス全員に身近な思いがあり、チームとしての一体感を育てた活動である。
- ・2チームでコートを2分して遊んでいた前年度の年長の姿には憧れがあり、<年長さんのドッジボール>と意識していた。4歳児後半になると5歳児に入れてもらった時の誇らしさも味わっていた。
- ・園では4歳児に引き継ぐ遊びとして、4歳児にルールを教えながら修了児としての自覚も育てている。

本活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ① 健康な心と体：機敏な動きや相手に届くようにパスをし、ねらい通りにボールを投げることを楽しむ
- ② 自立心：自分の成長に自信をもって、行動する。
- ③ 協同性：友達とのチーム対抗で協力し合って行動する。
- ⑥ 思考力の芽生え：相手チームの様子を見て考えて行動する。
- ⑨ 言葉による伝えあい：チーム同士で相手に通じるように声を掛け合う。

その2 修了式の練習 ～みんなで園生活を振り返り成長したことを実感する保育者の工夫～

○3学期になると、入学後の生活について「宿題があるんだよ！交流給食はまだかな？」「Bちゃん、別の学校へ行くんだって～つまらないな」「もう、先生やみんなとお別れ～？」「遊びにきてもいい？」などと修了や入学に対する思いが多くの子供から聞かれるようになった。そこで、一人一人が園生活を振り返り、楽しい思い出とともに学校生活への期待感をもって修了式に臨んでほしいと考えた。

○3歳児入園の頃や4歳児の運動会や生活発表会のスライドを用意し、併せて5歳児になってからの歩みを自作の人形とともに展示した。各自が成長の様子を視覚で実感でき、1年間の歩みに年長児としての責任感や、誇りを意識付けることができた。展示の1コマごとに一人一人の子供の成長の様子を保育者が解説したことで互いの育ちを認め合いそれぞれのよさを共有し自信をもつことにつながった。



○<修了の言葉>

修了と入学へ思いを込めた言葉を幼児たちで作った。(抜粋)

修了の言葉 (抜粋)

一学期には〇〇組になって〇〇園に行くときドキドキしたけど嬉しかったです
 五年生と校庭で鬼ごっこやかくれんぼをしたのが楽しかったです
 二学期には生活発表会で大きな声でセリフを言うのが恥ずかしかったけど頑張りました
 三学期には友達と一緒に鬼も沢山しました
 けんかもしたけど楽しかったです
 投げゴマに挑戦して段々回るようになりました
 もうすぐ一年生です学校に行ったら体育で運動を頑張ります！
 〇〇組さん、〇〇組になったらお当番をお願いします
 今日で〇〇園とおわかれです
 『保護者や身の回りの方々、先生方への感謝の言葉』
 大好きな〇〇園のこと絶対忘れません また遊びに来ます

本活動と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連

- ② 自立心：修了式に向かう期待感、入学への緊張と期待感をもって生活する。
- ③ 協同性：みんなで認め合いながら、修了式や入学式への思いに共感し合い元気に笑顔で参加しようとする。
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え：自信や誇りをもって修了の日を迎える。
- ⑤ 社会生活との関わり：大勢の人々が修了を祝ってくれることを実感する。
- ⑥ 思考力の芽生え：修了式や入学のことなど自分なりに考える。
- ⑦ 自然とのかかわり・生命尊重：自分の命を守り育ててくれた両親や身の周りの人々の温かい心を知る。
- ⑨ 言葉による伝え合い：自分の思いを言葉にして、みんなと一緒に修了の言葉を考えて伝え合う。
- ⑩ 豊かな感性と表現：心を含めて修了式に参加し、式にふさわしい態度をとる。

アプローチカリキュラムで大切にしたい活動のポイント～その1、その2を通して

修了や進学に向けてクラスで集まり、互いに認め合い友達とのつながりを感じながら、

ドッジボール引き分けた！
面白かったね！♪

けんかしないで話せるよ！

共通の目的に向かって達成する喜びを味わえる活動

修了式が終わったら4月は入園式だ！みんなで元気に返事をするよ！音を立てないでかっこよく立つんだ！

小学校との接続を意識した保育で大切にしていること～その1、その2を通して

- <生活> 入学に向けて、身の周りの始末や安全な生活への態度など、自分から気を付けるようにする。
- <人との関わり> 園生活を振り返り、周りの人々にお世話になったことに感謝の気持ちをもつようにする。
- <学び> 小学校生活への期待をもって、互いに気付いたことや感動をクラス全体で受け入れ、認め共有し、励まし合い、一人一人が自信をもつようにする。

